

芸術ニュースは世界へ発信するワールド・ステージ

週刊 芸術新聞

発行：アグリーシステム 週刊芸術新聞編集部
 本社：千葉県茂原市渋谷1016-12
 メール：agree@green.ocn.jp
 agree-sys@excite.co.jp
 HP：http://weeklyart.seesaa.net/auth/article_preview/

おもしろ体験博物館 江戸民具街道

神奈川県足柄上郡中井町久所418
 開館時間：10：00～17：00
 休館日：月曜日
 問い合わせ：0465-81-5339

神奈川県立 近代美術館

片岡球子展

面構シリーズを中心として

このほど神奈川県立近代美術館鎌倉別館では、片岡球子との縁はとて深いのがあることから、「片岡球子展 面構シリーズを中心として」が開催され、片岡フアンで賑わっている。

現代的な日本画 を作り上げ

日本画家の片岡球子（1905～2008）が亡くなってはや8年がたちます。1905年北海道札幌市に生まれる。女子美術専門学校（現・女子美術大学）日本画科高等科に入学、横浜市大岡尋常高等小学校（現・横浜市立大岡小学校）の教諭となる。以後30年間教鞭をとりながら制作を続けた。

1930年第17回院展に初入選以来、日本画を制作続けた。

1989年、文化勲章を受章し、歴史的にも名を残した片岡球子の評価は戦後の日本画を刷新し、伝統を踏まえながらも、さらに現代的な日本画を作り上げたことにあります。1966年から着手した「面構」（つらがまえ）シリーズは、独自の解釈で武将や絵師といった歴史的人物像を描きだした代表作といえます。



片岡フアンはたまらない

神奈川県立近代美術館と片岡球子との縁はとて深いものがあり、1979年に初の回顧展、2005年には100歳を記念する大規模な回顧展を開催している。

次号は
9月15日発行

◆ 7月30日
 (土) ～ 9月25日
 (日)

神奈川県立近代美術館
 鎌倉別館（神奈川県鎌倉市雪ノ下2丁目8番1） TEL 0467-222-5000
 一般600円 20歳未満・学生450円 65歳以上300円 高校生100円
 休館日：毎週月曜日（ただし9月19日は開館）

熱海湾を一望でき、眺望ナンバードンの美術館

■ MOA美術館（静岡県熱海市桃山町26）
 電話0557-（84）2511

一般1600円、高校生800円、中学生以下無料、65歳以上1200円
 円木曜日休（祝日は開館）

JR熱海駅下車／バス4番のりばMOA美術館行8分

版画でみる20世紀展 ピカソからウォールマまで開催中！

■ 諸橋近代美術館（福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093番23） 一般・大学生950円、高校生500円、小・中学生200円生*毎週土曜日、小・中学生は無料
 電話0241(37)1088

苦難な人生観

お河童頭に丸眼鏡で有名な藤田嗣治(1886~1968)の生涯と画業をたどる展覧会となっている。

27歳で初めてフランスに渡って以来、81年の生涯の半分近くを、フランスを中心とする異国で送った藤田の芸術は、まさに東と西の文化の上に誕生したもの。しかし、藤田自身は、二つ

の文化に引き裂かれる苦しみを味わっていた。エコール・ド・パリの寵児として大成功を収めた後

も繰り返される毀誉褒貶。戦中に描いた戦争画を巡る責任論。その結果としての、1949年の離日、フランス帰化、そしてカトリック入信という生涯は、芸術と人生の間にある、ぬきさしならぬ関係を示唆。

本展は、画家の没後長らく遺族のもとに保管され、フランス、ランス市に寄贈された800余点の中から選ばれた作品と、国内外の主要美術館および個人所蔵家から集められた作品約120点を展示し、藤田の芸術の新たな解釈と理解を指している。

生誕130年記念 藤田嗣治展

—東と西を結ぶ絵画—

生誕130年記念
藤田嗣治展
東と西を結ぶ絵画

メモ

◆7月16日(土)~9月22日(木・祝)
兵庫県立美術館
(兵庫県神戸市中央区脇

浜海岸通1-1) Tel 078-262-0901

一般1400円 大学生1000円 高校生00円 中学生00円 以下無料 月曜日休館(9/19日は開館 翌9/20休館)

アルバレス・ブラボ写真展

メキシコ、静かなる光と時



国内最大規模の本格的な回顧展

20世紀写真史に大きな足跡を残したメキシコの巨匠、マヌエル・アルバレス・ブラボ(1902~2000)。革命の動乱を経て、

壁画運動や前衛芸術が盛り上がりを見せた1920年代末に頭角を現し、最晩年の1990年代末に至るまで、一貫して独自の静けさと詩情をたたえた写真を撮り続けた。本展は作家遺族が運営す

るアーカイヴより全面的な協力を得て、192点のモノクロプリントと多数の資料を、全4部・9章構成で年代順に展覧している。約70年におよぶアルバレス・ブラボの仕事の魅力を紹介するとともに、国内最大規模の本格的な回顧展となる。

メモ

◆7月13日(水)~10月10日(月・祝)

世田谷美術館(東京都世田谷区砧公園1-2) Tel 03-3415-6011 一般1000円 65歳以上・高大生800円 高校生800円 小中生500円 毎週月曜日休館

かえってきた!魔法の美術館

熊本市現代美術館では、「かえってきた!魔法の美術館」展を開催中。

熊本は、4月に発生した大地震によって大きな被害を受けたから、このような時だからこそ、美術館で心

安らぐひとときを過(こ)してみてはいかがでしょうか。

メモ

◆6月25日(土)~9月19日(月)

愛知芸術文化センター(熊本県熊本市上通町2-3) Tel 096-278-7500 一般1000円 シニア(65歳以上)800円 学生(高校生以上)500円 中学生以下は無料 火曜日休館

日本の歴史・文化の流れの中から論点を絞ったテーマを選んでの展示

国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市城内町117) 電話03(5777)8600 ハロウダイヤル 一般420円、高校・大学生250円、中学生以下は無料 月曜日休館

着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本等多岐にわたる

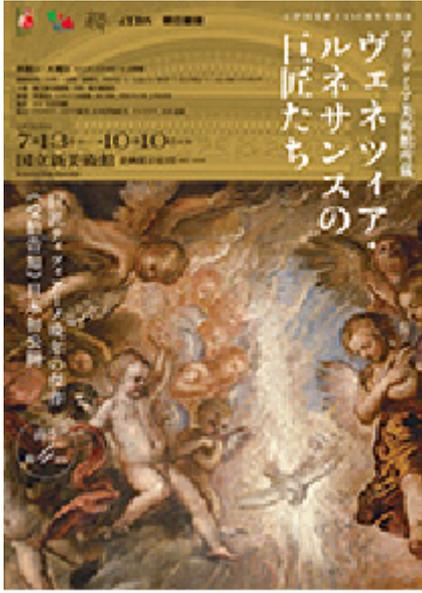
静岡市立芹沢銕介美術館(静岡市駿河区登呂5の10の5) 電話054(282)522 一般410円 高大生250円、月曜日休館

庭園ゾーン、書院ゾーン、体験ゾーン、展示ゾーン

北九州市立小倉城庭園(北九州市小倉北区城内1の2) 電話093(582)2747 会期中無休

アカデミア美術館所蔵

ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち



**本邦初の展覧会
が実現!**

アカデミア美術館は、ヴェネツィアの美術アカデミーが管理していた諸作品を礎として、1817年に開館した。14世紀から18世紀にかけてのヴェネツィア絵画を中心に、約2000点を数える充実したコレクションを有している。日本とイタリアの国交樹立150周年を契機として、同館の所蔵品による本邦初の展覧会が実現する運びとなった。

テーマは、ルネサンス期のヴェネツィア絵画。ルネサンス発祥の地であるフィレンツェの画家たちが、明快なデッサンに基づき丁寧に筆を重ねる着彩、整然とした構図を身上としたのに対して、ヴェネツィアの画家たちは、自由奔放な筆致

による豊かな色彩表現、大胆かつ劇的な構図を持ち味とし、感情や感覚に直接訴えかける絵画表現の可能性を切り開いていった。

本展では、選りすぐられた約60点の名画によって、15世紀から17世紀初頭に至るヴェネツィア・ルネサンス絵画の展開を一

望。ジョヴァンニ・パツリーニからクリヴェツリ、カルパッチョ、ティツィアーノ、ティントレット、ヴェロネーゼまで、名だた

る巨匠たちの傑作が一堂来日した。

また、ヴェネツィア盛期ルネサンス最大の巨匠ティツィアーノが晩年に手がけた祭壇画の大作、『受胎告知』(サン・サルヴァドール聖堂)が特別出品されることも、本展の大きな見どころとなるでしょう。ヴェネツィア絵画の歴史のなか

でルネサンス期に焦点を絞った展覧会は、国内ではほとんど例がない。この貴重な機会に、水の都ヴェネ

ツィアのルネサンスを彩った名画の数々を堪能でき

展覧会の構成

- 第1章 ルネサンスの黎明 15世紀の画家たち
- 第2章 黄金時代の幕開け ティツィアーノとその周辺
- 第3章 三人の巨匠たち ティントレット、ヴェロネーゼ、パツサーノ
- 第4章 ルネサンスの終

焉 巨匠たちの後継者
第5章 ヴェネツィアの肖像画

◆ 7月13日
◆ 10月10日
(水) ~ 10月10日

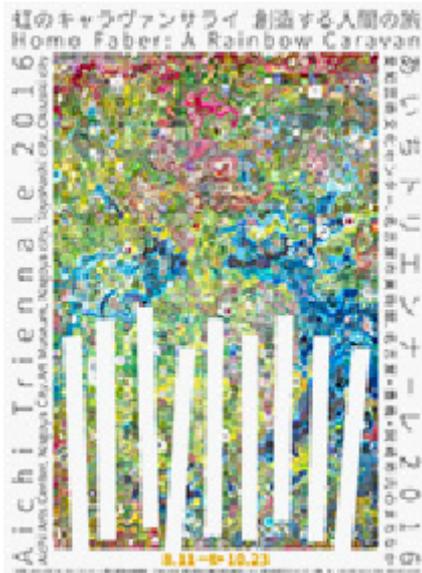
メモ

国立新美術館 企画展示
室2E (東京都港区六本木7-22-2) 10.03.5
777 8600 (ハローダイヤル) 一般1600円 大学生1200円 高校生800円 中学生以下無料 毎週火曜日休館

あいちトリエンナーレ2016 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅

愛知県で開催する現代アートの祭典

3年に1度、愛知県で開催する現代アートの祭典「あいちトリエンナーレ」。第3回となるあいちトリエンナーレ2016は、「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」というテーマのもと、世界38の国と地域から100組を超えるアーティストが集結！



□ 南米での滞在経験を経て、フランスを活動拠点の一つとする港千尋芸術監督に加え、キュレーターにブラジル拠点のダニエラ・カストロとトルコ拠点のゼイネップ・オズを招聘。それによって、参加するアーティストの出身国・地域は拡大し、海外のアーティスト

の比率も増加。国内に関しても北海道から沖縄までの幅広い地域での活動を紹介して、国内外で創作活動が盛んに行われていることを示します。

◆ 8月11日(木) ~ 10月23日 (日)
愛知芸術文化センター (名古屋市中区東栄1-13)
2) 名古屋美術館 (名古屋市中区栄2-17) 25 (芸術と科学の杜・白川公園内) ほか 一般1800円 大学生1300円 高校生700円 中学生以下は無料 毎週月曜日休館 問い合わせ 052-971-6111

特集

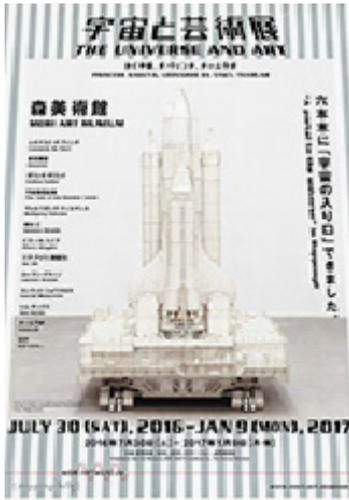
宇宙と芸術展

六本木に『宇宙の入り口』できました

六本木に『宇宙の入り口』ができました！とびつくりするキャッチフレーズ。森美術館の特別企画展「宇宙と芸術展」。

宇宙開発の最前線

「六本木に『宇宙の入り口』できました」と、アピール度があるキャッチフレーズではじまった森美術館では、7月30日(土)から2017年1月9日(月・祝)まで、「宇宙と芸術展」が開催されている。



て、世界各地の芸術の中で表現され、多くの物語を生み出してきた。

本展では、隕石や化石、ダ・ヴィンチやガリレオ・ガリレイ等の歴史的な天文学資料、曼荼羅や日本最古のSF小説ともいえる「竹取物語」、そして現代アーティストによるインスタレーションや、宇宙開発の最前線に至るまで、古今東西ジャンルを超えた多様な出展物約200点を一挙公開。「人は宇宙をどう見てきたか?」、「宇宙という時空間」、「新しい生命観 宇宙人はいるのか?」、「宇宙旅行と人間の未来」の4つのセクションで構成され、未来に向かっての新たな宇宙観、人間観を提示している。

9月のイベント予定

- 6日(火) 19:00-20:30 (受付開始: 18:30)
● 9日(金) 19:00-20:00 (開場: 17:30)
● 21日(水) 19:00-20:00
● 21日(水) 19:00-21:30
● 27日(火) 19:00-22:00 (受付開始18:45/最終入館: 21:30)

主な出展物

- ・レオナルド・ダ・ヴィンチ・ガリレオ
・ガリレイの天文学手稿
・星曼荼羅
・西界曼荼羅
・十二天像
・チベット曼荼羅

主な出展物

- ・竹取物語絵巻
・流星刀
・天球図、天球儀、天体望遠鏡、曆等、ルネッサンスや江戸時代の貴重な天文学資料ほか

メモ

7月30日(土)〜2017年1月9日(月・祝)
森美術館(東京都港区六本木6-10-1)
六本木ヒルズ森タワー53F
TEL 03-5777-8600
(ハローダイヤル) 一般1600円 学生(高校・大学生)1100円 子供(4歳 中学生)600円
会期中無休

2016年9月19日までの主な展覧会情報

美術館・博物館ガイド

東京都内

●東京国立博物館(平成館) 「古代ギリシャ 時空を超えた旅」 9月19日まで ㊦03 5777

●東京国立博物館(平成館) 「古代ギリシャ 時空を超えた旅」 9月19日まで ㊦03 5777

●国立西洋美術館 「メッケネムとドイツ初期銅版画」 9月19日まで ㊦03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1600円 月曜日休館

●三菱一号館美術館 「ジュリア・マーガレット・キヤメロン展」 9月19日まで ㊦03 5777

●一般1600円 月曜日休館

●東京ステーションギャラリー 「12 Rooms」 9月4日まで ㊦03 3200円 月曜日休館

●宮内庁三の丸尚蔵館

「駒競べ 馬の晴れ姿」 9月4日まで ㊦03 5208 1063 無料

●金曜日休館

●古代オリエント博物館 「古代オリエント美術の愉しみ」 9月4日まで ㊦03 3989 3491 一般1000円 無休

●根津美術館 「はじめの古美術鑑賞 絵画の技法と表現」 9月4日まで ㊦03 3400 2536 一般1100円 月曜日休館

●目黒区美術館 「童画の国から 物語・子ども・夢」 9月4日まで ㊦03 3714 1201 一般600円 月曜日休館

●練馬区立美術館 「しあがり寿の現代美術 回・転・展」 9月4日まで 一般800円 月曜日休館

●世田谷文学館 「生誕100年 映画監督・小林正樹」 9月15日まで ㊦03 5374 9111 一般800円 月曜日休館

●島山記念館 「茶の湯ことはじめ」 8月28日まで ㊦03 3447 5787 一般700円 月曜日休館

東京郊外

●府中市美術館 「燃える東京・多摩 画家新海覚雄の軌跡」 9月11日まで ㊦03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般200円 月曜日休館

●青梅市立美術館 「家族で美術館へ登山に行こう!!」 9月4日まで 一般200円 月曜日休館

●横浜美術館 「メアリー・カサット展」 8月21日まで ㊦03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1600円

関東北部

●国立歴史民俗博物館 「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」 9月4日まで ㊦03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般830円 月曜日休館

●しもだて美術館 「ダンボールアート遊園地」 9月4日まで ㊦02 9623 1601 一般520円 月曜日休館

●茨城県陶芸美術館 「現代陶芸・案内(ガイド)」 9月11日まで ㊦02 9720 0011 一般720円 月曜日休館

●サトエ記念21世紀美術館 「埼玉ゆかりの芸術家展」 9月4日まで ㊦02 7324 6125 一般500円 月曜日休館

木曜日休館

●鎌倉文学館 「たかどのほうこの世界」 9月19日まで ㊦04 667 2339 11 一般300円 月曜日休館

●茅ヶ崎市美術館 「じぶんのまわり展」 9月4日まで ㊦04 667 8811 77 一般500円 月曜日休館

●高崎市美術館 「森竹巳の百均造形 みぢかなモノでおもしろアート」 9月4日まで ㊦04 86 45 8171 一般600円 月曜日休館

●高崎市タワー美術館 「どうぶつ大集合!」 9月4日まで ㊦02 730 3773 一般500円 月曜日休館

●宇都宮美術館 「クワクポリョウタ展 見ることを見る」 9月4日まで ㊦02 8643 0100 一般310円 月曜日休館

●水戸芸術館 現代美術ギャラリー 「記憶の円環 一榮榮&映里と袁廣鳴の映像表現」 9月19日まで ㊦02 9227 8111 一般800円 月曜日休館

●河口湖美術館 「画家の自画像」 9月4日まで ㊦05 5573 866 一般800円 無休

●山梨県立博物館 「医は仁術」 9月5日まで ㊦05 55261 2631 一般1000円 火曜日休館

ルネ・ラリックの生涯と出会う

●箱根ラリック美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1) 電話0460(84) 2255 一般1500円、大学生・高校生・シニア(65歳以上) 1300円、中学生・小学生800円年中無休

からくり人形な関係資料多数展示中

●江戸民具街道(神奈川県足柄上郡中井町久所418) 電話0465(81) 5339 月曜日休館

箱根の景観と自慢のスウィーツを染しめず

●箱根写真美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300 432) 電話0460(82) 2717 火曜日休館 毎週土曜日は夕方5時まで営業

Art Topics

LIXIL
ギャラリー

大塚茂吉展

静寂なる振動



「静」2016年
h66×w26×d22.5cm
撮影
Georgic Eisen

大塚茂吉氏は1994年よりイタリア・フアエンツアにて陶芸作品を制作している。テラコッタによる女性像や猫像などは、静謐でモダンな雰囲気をつたえ、独特の表現が高い人気を得ている。

今展では、今春イタリアにて制作発表された新作4点を含む7点を展示される。

メモ

9月13日(火)

10月31日(月)
LIXILギャラリー
リー(東京都中央区
京橋3 6 18 東

伊藤久佳 陶展



「静」2016年

Hsaka ITO Exhibition
Art Gallery LOS PINOS
Aug.26 - Sep.11, 2016 (Wed. closed)

Art Gallery LOS PINOS & Cafe

当ギャラリーでは2014年9月から2年ぶり、5度目の個展。

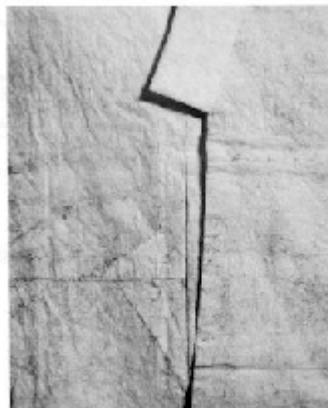
伊藤久佳さんは、兵庫県川西市生まれ。メキシコにて、陶芸指導と制作。現在兵庫県三田市の工房にて制作活動中。



◆8月28日〜9月11日
アートギャラリーロスピンズ
ノス 藤沢市南藤沢7 6
102 TEL 0466 26000

LIXIL
ギャラリー
(大阪会場)

WASHI 紙のみぞ知る用と美展



「遊」2016年
h100×w100×d10mm
撮影
Georgic Eisen

本展では、木、布、皮などに代用された変幻自在な紙製品約80点を、「衣」「食」「住」「遊」の生活場面

京建物京橋ビル LIXIL
GINZA 2F TEL 03 5250 6530
無料 水曜日休館

のコーナーに分けて紹介。和紙文化が栄えた江戸から昭和初期にかけて丹精を込めて生み出された逸品を展観できる。

メモ

9月9日(金)

11月22日(火)
LIXILギャラリー大阪会場(大阪市北区大深町4 20 グランフロント大阪南館タワーA12F) TEL 06 6733 1790 無料 水曜日休館

編集後記

◆異様な気候が続いた夏もカレンダール上では終わり、秋の陽気になろうとしていますが思うように変わらず、苦戦している状態ですね。早く「芸術の秋」になっても各美術館・博物館・ギャラリーからは秋の企画展の案内が編集部にも多く届いています。

◆本紙編集部も気分は「秋」になって、取材に飛び回っています。特に9月に入ると展示替えがあることから、記者会見や内覧会が連日待ち構え、うれしい悲鳴となっています。

◆こんなことから、国内の美術館・博物館・ギャラリーからのメール便や封書によるご案内が連日入り、編集部一同感謝しております。これだけ世間に認められたのではないかと、と思っております。いくら忙しくても、なかなか地方の美術館・博物館に足が運ばず、ご迷惑をおかけしていることをお詫びを申し上げます。さらなる努力を重ね、全国津々浦々まで取材体制が構築できるまで頑張る所存です。

Y・O